



# おくすり通信

## No. 27 女性ホルモン製剤

こんにちは、薬剤科です。今回はビタミンD製剤についてご紹介しました。今回は骨粗鬆症に関わる女性ホルモンと医薬品について説明していきます。

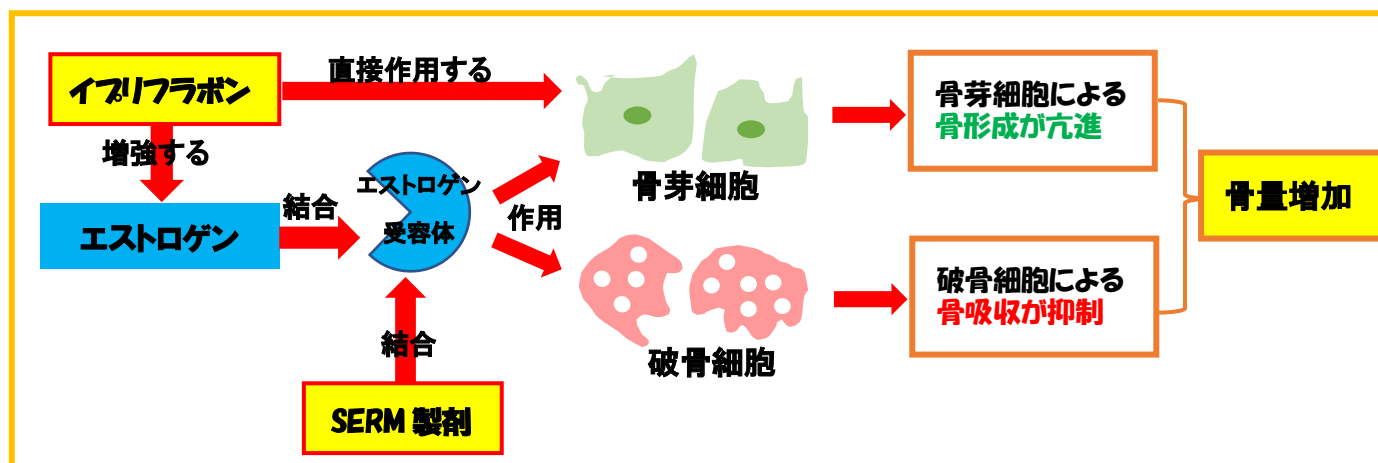
### 《女性ホルモンと骨粗鬆症》

女性ホルモンの一つである「エストロゲン」には、骨形成（骨を作る）を促進する作用、また破骨細胞による骨吸収（骨を壊す働き）を抑制する作用があります。しかし、閉経を迎えるとこのエストロゲンが減少し、破骨細胞が活性化して急激に骨吸収が亢進するため、同年代の男性よりも骨密度が低下してしまいます。骨粗鬆症になる患者さんの80%が女性である理由はこれに当たります。

### 《選択的エストロゲン受容体モジュレーター（SERM）とイプリフラボン製剤》

骨粗鬆症の治療薬の一つであるSERMは骨組織のエストロゲン受容体に結合して、エストロゲンと同じ作用を示す薬になります。このSERMという薬は、女性の閉経後に減少してしまうエストロゲンの働きを助ける作用があり、閉経による骨粗鬆症を予防する効果があります。また子宮や乳房にあるエストロゲン受容体には作用しないため、子宮癌や乳癌を引き起こすリスクが少ないことも特徴的です。

一方、イプリフラボン製剤はエストロゲンの働きを増強して骨粗鬆症を予防する間接的な作用と骨芽細胞に直接作用して骨形成を促進する2つの効果を示す薬剤です。



SERMとイプリフラボン製剤を以下の表にまとめてみたので、参考にして下さい。

一般名	商品名	用法
ラロキシフェン	エピスタ	60mg 1日1回
バゼドキシフェン	ビピアント	20mg 1日1回
イプリフラボン	オステン	1回200mg、1日3回

次回は骨粗鬆症の治療で用いられる注射剤についてご紹介します。  
そのほか気になる点がございましたら、お気軽にご相談ください。